

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

沖縄県では、「しまくとぅば」の普及継承を重点施策と位置づけ、平成25年度に、「しまくとぅば普及推進計画（10カ年計画）」を策定し、普及継承に取り組んでいる。

「しまくとぅば」は、地域の伝統行事等で使用される大切な言葉であるとともに、組踊や琉球舞踊、沖縄芝居等といった沖縄文化の基層となる言葉である。

県民の施策の検討の為に「しまくとぅば」に関する調査を行うことで、その実態を把握し、今後の「しまくとぅば」の普及に向けた課題と効果的な施策の検討の為に本調査を実施した。

2. 調査内容

これまで実施した「しまくとぅば県民意識調査」の集計方法と同じ手法で、「しまくとぅば」に対する県民の意識や普及の度合いについて調査。

- ・調査対象：沖縄県内に在住する18歳以上の男女
- ・調査地区：県内全市町村
- ・回収実績：2,021件 郵送数7,500件 回収率26.9%

※県民全体の縮図となるように、対象調査地区人口及び年齢構成比に応じ、調査件数を比例分配し市町村毎の件数を決定した。

〈人口データ：市町村の町字別住民基本台帳人口及び世帯数【日本人】（令和2年1月1日現在）〉

3. 調査実施期間

令和3年2月24日（水）～令和3年3月1日（月）

4. 調査対象者数の設定

調査対象者数は下記のとおり設定した。

- ①市町村別人口構成比に応じて、市町村別調査対象者数を設定
- ②2,500件回収目標につき、回収率33.4%想定で必要件数を7,500件に設定
- ③7,500件を市町村別人口構成比に応じて按分
- ④按分した市町村別調査対象数を10で除し、各市町村別調査地点数を算出
- ⑤市町村別調査地点は無作為抽出にて設定

市町村別人口、人口構成比、調査対象者数は4ページを参照。

5. 調査手法

郵送調査（回収は返送及びWEB回答）

※従来、面接調査で実施しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症対策として、郵送調査により実施した。回収率向上を図るため、WEB上での回答フォームも用意した。

6. 調査対象者の抽出方法

各市町村の住民基本台帳より算出

7.調査実施機関（業務委託先）

(株)アドスタッフ博報堂・MEDIAFLAG沖縄 共同企業体

8.集計・分析上の注意事項

回答者数は「n」で表記している。

集計値は、原則として回答数の合計を100とした場合の構成比で、小数点 第2位以下を四捨五入した値で示している。このため、内訳の合計が100%にならない場合がある。

複数回答（2つ以上の選択肢を回答）は原則として100%を超える。

集計結果については、各市町村の人口構成比に合わせてウェイトバック集計を行った。

図表1 市町村別人口、対象年代人口、人口構成比

市町村名	配布数	回収目標	回収目標	回収率	総数	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79
沖縄県	7,500	2500	2021	80.8%	1,026,630	73,874	75,009	89,399	94,534	103,944	103,544	89,519	89,678	93,204	97,880	60,574	55,471
北部	621	205	166	81.0%	85,037	6,124	5,751	6,928	7,316	7,972	7,385	6,773	7,689	8,857	9,551	5,726	4,965
名護市	318	105	86	81.9%	43,566	3,488	3,244	3,896	4,022	4,350	3,897	3,500	3,778	4,082	4,355	2,599	2,355
国頭村	24	8	6	75.0%	3,247	145	176	222	222	224	226	258	370	428	480	272	224
大宜味村	16	5	4	80.0%	2,158	94	104	140	132	160	125	172	239	322	324	212	134
東村	9	3	2	66.7%	1,283	64	60	81	81	102	107	90	140	186	202	91	79
今帰仁村	47	16	13	81.3%	6,422	323	329	418	498	545	487	491	653	836	915	511	416
本部町	68	22	18	81.8%	9,279	526	601	664	741	747	647	711	926	1178	1254	713	571
恩納村	53	17	14	82.4%	7,283	627	462	553	591	682	734	613	650	716	801	463	391
宜野座村	30	10	8	80.0%	4,044	304	268	342	378	416	408	260	310	392	425	297	244
金武町	57	19	15	78.9%	7,755	553	507	612	651	746	754	678	623	717	795	568	551
中部	3,229	1,095	872	79.6%	442,119	34,693	33,866	38,569	40,019	45,816	46,443	39,192	37,732	38,093	39,642	25,081	22,973
宜野湾市	503	166	136	81.9%	68,864	5,685	5,472	6,398	6,670	7,361	7,479	6,069	5,463	5,465	5,709	3,674	3,419
浦添市	585	193	158	81.9%	80,135	5,933	6,086	7,110	7,347	8,474	8,744	7,556	6,920	6,449	6,852	4,460	4,204
沖縄市	717	267	194	72.7%	98,180	7,703	7,864	8,556	8,825	10,254	10,411	8,841	8,374	8,208	8,729	5,481	4,934
うるま市	628	207	170	82.1%	86,048	6,690	6,394	7,330	7,480	8,625	8,532	7,212	7,631	7,994	8,266	5,320	4,574
読谷村	208	68	56	82.4%	28,459	2,151	1,972	2,313	2,504	2,922	2,982	2,522	2,537	2,746	2,698	1,552	1,560
嘉手納町	67	22	18	81.8%	9,240	699	711	730	747	932	897	821	854	883	874	530	562
北谷町	144	48	39	81.3%	19,751	1,516	1,471	1,712	1,852	2,142	2,185	1,750	1,620	1,596	1,759	1,093	1,055
北中城村	87	29	23	79.3%	11,892	892	865	1,000	1,033	1,257	1,274	1,073	996	1,044	1,063	721	674
中城村	107	35	29	82.9%	14,715	1,243	1,203	1,403	1,368	1,555	1,506	1,235	1,225	1,315	1,276	707	679
西原町	181	60	49	81.7%	24,835	2,181	1,828	2,017	2,193	2,294	2,433	2,113	2,112	2,393	2,416	1,543	1,312
那覇	1,668	550	451	82.0%	228,344	15,853	16,089	19,041	20,546	23,054	24,650	21,303	19,717	19,245	21,761	13,871	13,214
那覇市	1,668	550	451	82.0%	228,344	15,853	16,089	19,041	20,546	23,054	24,650	21,303	19,717	19,245	21,761	13,871	13,214
南部	1,314	433	355	82.0%	179,842	12,713	13,814	17,206	17,799	18,355	17,031	14,568	15,281	16,408	17,176	10,209	9,282
糸満市	312	103	84	81.6%	42,732	3,041	3,329	4,070	4,170	4,120	3,833	3,414	3,817	4,156	4,270	2,380	2,132
豊見城市	325	107	88	82.2%	44,461	3,141	3,341	4,322	4,660	5,050	4,626	3,778	3,440	3,600	3,871	2,472	2,160
南城市	222	73	60	82.2%	30,345	2,071	2,102	2,415	2,628	2,804	2,740	2,397	2,716	3,201	3,310	1,999	1,962
与那原町	101	33	27	81.8%	13,767	983	1,150	1,383	1,446	1,360	1,347	1,079	1,126	1,161	1,246	783	703
南風原町	197	65	53	81.5%	26,920	1,952	2,243	2,956	2,795	2,905	2,642	2,129	2,146	2,181	2,359	1,372	1,240
八重瀬町	158	52	43	82.7%	21,617	1,525	1,649	2,060	2,100	2,116	1,843	1,771	2,036	2,109	2,120	1,203	1,085
宮古地区	283	93	75	80.6%	38,699	1,998	2,119	2,915	3,629	3,581	3,283	3,218	4,080	4,773	4,274	2,556	2,273
宮古島市	277	91	75	82.4%	37,910	1,957	2,098	2,869	3,575	3,516	3,220	3,142	3,983	4,677	4,185	2,482	2,206
多良間村	6	2	0	0.0%	789	41	21	46	54	65	63	76	97	96	89	74	67
八重山地区	286	94	77	81.9%	39,092	1,887	2,636	3,650	4,196	4,088	3,690	3,310	3,641	4,038	3,886	2,170	1,900
石垣市	254	84	69	82.1%	34,773	1,716	2,347	3,222	3,686	3,635	3,242	2,980	3,255	3,588	3,454	1,941	1,707
竹富町	22	7	6	85.7%	3,074	126	219	311	369	319	296	240	271	325	302	158	138
与那国町	9	3	2	66.7%	1,245	45	70	117	141	134	152	90	115	125	130	71	55
その他の離島	99	30	25	83.3%	13,497	606	734	1,090	1,029	1,078	1,062	1,155	1,538	1,790	1,590	961	864
伊江村	23	7	6	85.7%	3,163	151	136	223	217	256	224	232	367	488	406	217	246
渡嘉敷村	4	1	1	100.0%	510	10	35	64	60	51	31	62	41	65	41	30	20
座間味村	5	1	1	100.0%	681	24	44	61	64	67	84	79	67	59	66	38	28
粟国村	3	1	0	0.0%	456	22	19	24	34	38	41	32	48	63	67	39	29
渡名喜村	2	1	0	0.0%	257	4	13	14	15	15	14	22	40	28	38	26	28
南大東村	6	2	2	100.0%	856	28	51	77	82	52	77	76	119	110	76	43	65
北大東村	3	1	0	0.0%	410	13	37	30	39	29	31	53	52	44	43	20	19
伊平屋村	6	2	2	100.0%	811	27	43	68	55	66	56	66	107	121	85	62	55
伊是名村	7	2	2	100.0%	955	44	51	68	61	73	76	74	94	153	119	81	61
久米島町	40	12	11	91.7%	5,398	283	305	461	402	431	428	459	603	659	649	405	313

調査結果の総括

第2章 調査結果の総括

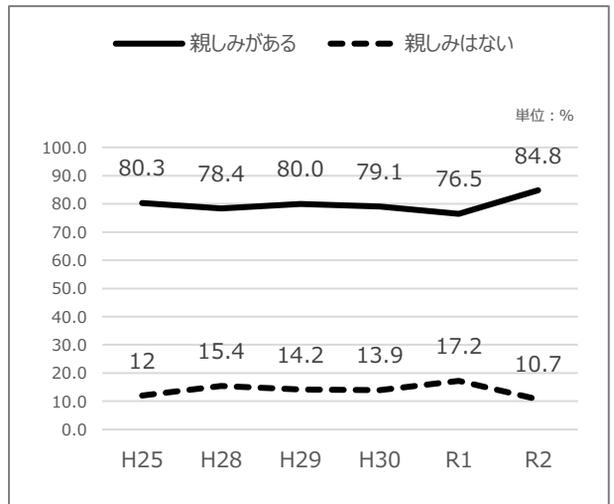
1. 調査結果のポイント

「しまくとぅば」に対する親しみ

【全体】

- ・親しみを持っている 50.8%
- ・どちらかといえば親しみを持っている 34.0%
- ・合計 84.8%

〈しまくとぅばへの親しみ推移〉



【過去調査との比較】

- 前々回調査（平成30年度）
 - ・親しみを持っている 41.2%
 - ・どちらかといえば親しみを持っている 37.9%
 - ・合計 79.1%
- 前回調査（令和元年度）
 - ・親しみを持っている 38.1%
 - ・どちらかといえば親しみを持っている 38.4%
 - ・合計 76.5%

ポイント

過去調査と比較すると大幅に増加となった。

【性別】

- 男性
 - ・親しみを持っている 54.3%
 - ・どちらかといえば親しみを持っている 31.6%
 - ・合計 85.9%
- 女性
 - ・親しみを持っている 48.0%
 - ・どちらかといえば親しみを持っている 35.9%
 - ・合計 83.9%

ポイント

性別で比較するとやや男性のほうが親しみを持っている。

【年代別】

- 最も低い→10代
 - ・親しみを持っている 19.1%
 - ・どちらかといえば親しみを持っている 39.3%
 - ・合計 58.4%
- 最も高い→60代
 - ・親しみを持っている 63.0%
 - ・どちらかといえば親しみを持っている 30.3%
 - ・合計 93.3%

ポイント

年代が上がるほど、「親しみを持っている」、「どちらかといえば親しみを持っている」と回答した割合が高い。「親しみを持っている」だけでは70歳以上が70.8%で最も高い。

【地区別】

- 最も高い→八重山地区
 - ・親しみを持っている 43.4%
 - ・どちらかといえば親しみを持っている 45.4%
 - ・合計 88.8%
- 最も低い→宮古地区
 - ・親しみを持っている 51.4%
 - ・どちらかといえば親しみを持っている 27.8%
 - ・合計 79.2%

ポイント

・「親しみを持っている」、「どちらかといえば親しみを持っている」と回答した割合の合計値について、八重山地区が最も高く、宮古地区が最も低い。沖縄本島内では中部地区が最も高い。
 ・宮古地区では「親しみを持っている」が51.4%で地域別では3番目に高いが、「どちらかといえば親しみを持っている」の回答が最も低かった。

「しまくとぅば」に対するイメージ

【肯定的な回答が多いもの】

・面白い (73.9%)、明るい (70.0%)、身近に感じる (69.6%)、誇らしい (68.1%)、

【肯定的な回答が少ないもの】

・明瞭 (30.4%)、丁寧 (33.6%)、さわやか (38.5%)

ポイント

・肯定的な回答が少ないものであっても、「どちらでもない」の回答が多いため、否定的な回答は少ない。

例 明瞭：「非常に」、「やや」の合計30.4%⇔不明瞭：「非常に」、「やや」の合計22.3%

「しまくとぅば」に対する理解度

【全体】

・よくわかる 19.1% ・ある程度わかる 51.1% ・合計 70.2%

【過去調査との比較】

○前々回調査（平成30年度）

・よくわかる 15.5% ・ある程度わかる 47.3% ・合計 62.8%

○前回調査（令和元年度）

・よくわかる 18.4% ・ある程度わかる 42.5% ・合計 60.9%

【性別】

○男性

・よくわかる 23.7% ・ある程度わかる 53.4% ・合計 77.1%

○女性

・よくわかる 15.8% ・ある程度わかる 50.0% ・合計 65.8%

【年代別】

○最も低い→20代

・よくわかる 1.7% ・ある程度わかる 32.0% ・合計 33.7%

○最も高い→70歳以上

・よくわかる 47.5% ・ある程度わかる 45.1% ・合計 92.6%

【地区別】

○最も低い→八重山地区 ・よくわかる 3.7% ・ある程度わかる 62.8% 合計66.5%

○最も高い→中部地区 ・よくわかる 23.1% ・ある程度わかる 53.3% 合計76.4%

ポイント

前回調査との比較では「よくわかる」「ある程度分かる」の合算値が9.3%増加。

経年では「よくわかる」が徐々に上がっている。

年代別では、20代33.7%、70歳以上92.6%と大きな開きがある。

「しまくとぅば」関連のイベントについて

【全体】

・参加したことがある 6.8%

【過去調査との比較】

○前回調査（令和元年度）

・参加したことがある 8.2%

ポイント

前回比較ではやや減少。新型コロナウイルスにおけるイベント中止等の影響もあったと考えられる。

「しまくとぅば」の使用頻度

【全体】

- ・しまくとぅばを主に使う 3.6% ・しまくとぅばと共通語を同じくらい使う 17.7% ・挨拶程度使う 21.9%
- ・合計 43.2%

【過去調査との比較】

- 前々回調査（平成30年度）
 - ・しまくとぅばを「使う」49.8%
- 前回調査（令和元年度）
 - ・しまくとぅばを「使う」56.7%

【性別】

○男性

- ・しまくとぅばを主に使う 5.4%
- ・しまくとぅばと共通語を同じくらい使う 24.1%
- ・挨拶程度使う 22.8%
- ・合計 52.3%

○女性

- ・しまくとぅばを主に使う 2.1%
- ・しまくとぅばと共通語を同じくらい使う 12.7%
- ・挨拶程度使う 21.1%
- ・合計 35.9%

【年代別】

○最も低い→10代

- ・しまくとぅばを主に使う 5.3%
- ・しまくとぅばと共通語を同じくらい使う 4.5%
- ・挨拶程度使う 13.8%
- ・合計 23.6%

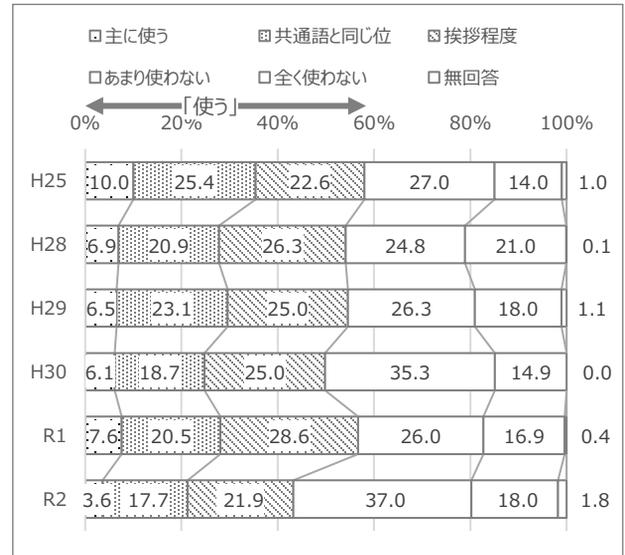
○最も高い→70歳以上

- ・しまくとぅばを主に使う 8.9%
- ・しまくとぅばと共通語を同じくらい使う 34.5%
- ・挨拶程度使う 18.3%
- ・合計 61.7%

ポイント

過去調査と比較すると使用頻度は最も低くなっている。性別では男性が女性と比較すると16.4%、年代別では最も高い70歳以上と10代を比較すると38.1%と大きな差があった。

〈しまくとぅばの使用頻度推移〉



【地域別】

○最も高い→中部地区

- ・しまくとぅばを主に使う 5.4%
- ・しまくとぅばと共通語を同じくらい使う 22.5%
- ・挨拶程度使う 18.9%
- ・合計 46.8%

○最も低い→南部地区

- ・しまくとぅばを主に使う 2.7%
- ・しまくとぅばと共通語を同じくらい使う 14.6%
- ・挨拶程度使う 23.2%
- ・合計 40.5%

「しまくとぅば」を使う相手

【全体】

- 【割合が高いもの】・友達（39.8%）、父母（32.6%）、親戚（24.4%）
- 【割合が低いもの】・子供（11.0%）、職場の同僚（14.5%）、夫・妻（18.5%）
- ・無回答 11.9%

【過去調査との比較】

○前々回調査（平成30年度）

- 【割合が高いもの】・友達（58.2%）、親戚（36.6%）、父母（36.0%）
- 【割合が低いもの】・子供（13.5%）、職場の同僚（21.9%）、夫・妻（22.9%）
- ・無回答 1.8%

○前回調査（令和元年度）

- 【割合が高いもの】・友達（48.1%）、父母（29.3%）、親戚（29.2%）
- 【割合が低いもの】・子供（14.5%）、職場の同僚（15.7%）、夫・妻（21.1%）
- ・無回答 15.4%

ポイント

これまでの調査結果との比較では「父母」が高くなっている。新型コロナウイルスによる自宅滞在時間増加の影響も考えられる。

「しまくとぅば」を使う場面（公共の場でしまくとぅばを使用してもいいと思うか）

【全体】

- ・そう思う 18.4%
- ・ややそう思う 24.2%
- ・合計 42.6%

【過去調査との比較】

- 前回調査（令和元年度）
 - ・そう思う 17.7%
 - ・ややそう思う 29.6%
 - ・合計 47.3%

【性別】

- 男性
 - ・そう思う 18.1%
 - ・ややそう思う 24.4%
 - ・合計 42.5%
- 女性
 - ・そう思う 18.7%
 - ・ややそう思う 24.0%
 - ・合計 42.7%

【年代】

- 最も低い→30代
 - ・そう思う 12.5%
 - ・ややそう思う 24.2%
 - ・合計 36.7%
- 最も高い→60代
 - ・そう思う 21.6%
 - ・ややそう思う 26.2%
 - ・合計 47.8%

【地区別】

- 最も低い→宮古地区
 - ・そう思う 13.9%
 - ・ややそう思う 20.8%
 - ・合計 34.7%
- 最も高い→八重山地区
 - ・そう思う 11.2%
 - ・ややそう思う 33.5%
 - ・合計 44.7%

ポイント

前回調査と比較すると4.7%減少。ただ、前々回（43.9%）と比較すると1.3%の減少となっている。

性別ではあまり差が無かった。

地域別では八重山地区が最も高かった。

普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性

【全体】

- ・非常に必要 15.4%
- ・ある程度必要 60.1%
- ・合計 75.5%

【過去調査との比較】

- 前々回調査（平成30年度）
 - ・非常に必要 18.9%
 - ・ある程度必要 59.7%
 - ・合計 78.6%
- 前回調査（令和元年度）
 - ・非常に必要 17.2%
 - ・ある程度必要 61.3%
 - ・合計 78.5%

【性別】

- 男性
 - ・非常に必要 16.4%
 - ・ある程度必要 59.4%
 - ・合計 75.8%
- 女性
 - ・非常に必要 14.7%
 - ・ある程度必要 60.7%
 - ・合計 75.4%

【年代別】

- 最も低い→10代
 - ・非常に必要 5.4%
 - ・ある程度必要 61.1%
 - ・合計 66.5%
- 最も高い→70歳以上
 - ・非常に必要 18.6%
 - ・ある程度必要 62.2%
 - ・合計 80.8%

ポイント

経年比較では3%ほど減少している。

性別ではあまり差が見られない。

最も低い10代だが、「ある程度必要」の回答に限ると20代・30代・40代よりも高かった。

「しまくとぅば」普及のために必要なこと

【全体】

- ・最も高い
「学校の総合学習等での実施」→67.3%
- ・最も低い
「しまくとぅば」検定試験→20.4%

【過去調査との比較】

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○前々回調査（平成30年度） ・最も高い
「学校の総合学習等での実施」→63.9% ・最も低い
「官公庁でのしまくとぅば使用」→15.6% | <ul style="list-style-type: none"> ○前回調査（令和元年度） ・最も高い
「学校の総合学習等での実施」→63.9% ・最も低い
民間企業での「しまくとぅば」使用→16.6% |
|---|--|

ポイント

過去調査でも「学校の総合学習等での実施」が一位。今回は更に3.4%高くなった。

「しまくとぅば」の子どもたちへの継承について

【全体】

- ・是非、使えるようになって欲しい 29.7%
- ・できれば、使えるようになって欲しい 52.3%
- ・合計 82.0%

【性別】

- 男性
 - ・是非、使えるようになって欲しい 32.8%
 - ・できれば、使えるようになって欲しい 48.6%
 - ・合計 81.4%
- 女性
 - ・是非、使えるようになって欲しい 27.3%
 - ・できれば、使えるようになって欲しい 55.1%
 - ・合計 82.4%

【地区別】

- 最も低い→八重山地区
 - ・是非、使えるようになって欲しい 18.7%
 - ・できれば、使えるようになって欲しい 57.8%
 - ・合計 76.5%
- 最も高い→中部地区
 - ・是非、使えるようになって欲しい 33.8%
 - ・できれば、使えるようになって欲しい 50.5%
 - ・合計 84.3%

【年代別】

- 最も低い→20代
 - ・是非、使えるようになって欲しい 25.4%
 - ・できれば、使えるようになって欲しい 46.1%
 - ・合計 71.5%
- 最も高い→60代
 - ・是非、使えるようになって欲しい 33.8%
 - ・できれば、使えるようになって欲しい 53.5%
 - ・合計 87.3%

ポイント

経年比較ではほぼ横ばいで推移。（平成30年:81.0%）（令和元年：82.2%）
性別でほぼ差は見られないが年代別では年代が上がるにつれて肯定的な回答が増えている。

学校の授業科目に「しまくとぅば」を加える事

【全体】

- ・「行事や日常のあいさつ等、授業以外での活動に取り組んでほしい」→63.9%
- 「どちらとも言えない」→13.3%
- 「他の教科の授業を減らしてでも、是非、加えてほしい」→11.1%
- 「まったく加えなくてもよい」→8.6%

【過去調査との比較】

○前々回調査（平成30年度）

- ・最も高い
- 「行事や日常のあいさつ等、授業以外での活動に取り組んでほしい」→51.1%
- ・最も低い
- 「まったく加えなくてもよい」→10.9%

○前回調査（令和元年度）

- ・最も高い
- 「行事や日常のあいさつ等、授業以外での活動に取り組んでほしい」→53.6%
- ・最も低い
- 「まったく加えなくてもよい」→7.3%

ポイント

過去調査でも「行事や日常のあいさつ等、授業以外での活動に取り組んでほしい」が前回調査時より10%以上向上している。

家庭での取組み

【全体】

- ・積極的に教えている 4.4%
- ・時々教えている 45.4%
- ・合計 49.8%

【過去調査との比較】

○前々回調査（平成30年度）

- ・積極的に教えている 8.8%
- ・時々教えている 42.1%
- ・合計 50.9%

○前回調査（令和元年度）

- ・積極的に教えている 12.9%
- ・時々教えている 44.8%
- ・合計 57.7%

【性別】

○男性

- ・積極的に教えている 3.7%
- ・時々教えている 44.7%
- ・合計 48.4%

○女性

- ・積極的に教えている 4.9%
- ・時々教えている 45.9%
- ・合計 50.8%

【年代別】

○最も低い→10代

- ・積極的に教えている 0.0%
- ・時々教えている 28.4%
- ・合計 28.4%

○最も高い→70歳以上

- ・積極的に教えている 4.5%
- ・時々教えている 50.5%
- ・合計 55.0%

【地区別】

○最も低い→八重山地区

- ・積極的に教えている 4.9%
- ・時々教えている 38.0%
- ・合計 42.9%

○最も高い→中部地区

- ・積極的に教えている 3.2%
- ・時々教えている 48.9%
- ・合計 52.1%

ポイント

経年比較では前回調査と比較すると7.9%減少。前々回時から1.1%減少となっている。

性別ではやや女性が高い。地域別では最も高い中部と最も低い八重山地区では10%近くの差があった。

地域への愛着

【全体】

- ・とてもある 48.0%
- ・ややある 37.7%
- ・合計 85.7%

【年代別】

- 最も低い→30代
 - ・とてもある 44.2%
 - ・ややある 35.9%
 - ・合計 80.1%
- 最も高い→10代
 - ・とてもある 48.4%
 - ・ややある 43.4%
 - ・合計 91.8%

【性別】

- 男性
 - ・とてもある 52.5%
 - ・ややある 34.2%
 - ・合計 86.7%
- 女性
 - ・とてもある 44.5%
 - ・ややある 40.4%
 - ・合計 84.9%

【地区別】

- 最も低い→北部地区
 - ・とてもある 49.8%
 - ・ややある 32.9%
 - ・合計 82.7%
- 最も高い→八重山地区
 - ・とてもある 54.6%
 - ・ややある 34.2%
 - ・合計 88.8%

ポイント

性別では「とてもある」との回答がやや男性が高い。
 年代別では10代が最も地元への愛着を感じている。
 地域別では八重山地区、次いで宮古地区と離島が上位。

「しまくとぅば」の普及継承の取り組みについての認知度

【全体】

○最も低い

「しまくとぅば普及推進に取り組む団体等への補助金制度」→2.0%

○最も高い

「しまくとぅばの日」→ 27.2%

【性別】

○男性

最も低い→「しまくとぅば普及推進に取り組む団体等への補助金制度」 2.2%

最も高い→「しまくとぅばの日」 28.7%

○女性

最も低い→「しまくとぅばの日に関する条例」 1.5%

最も高い→「しまくとぅばの日」・「しまくとぅば普及推進CM」 26.1%

【年代別】

○10代

最も低い→「しまくとぅば講師養成講座」 0.0%

最も高い→「しまくとぅばの日」 26.7%

○20代

最も低い→「しまくとぅば普及センターの設置」 1.1%

最も高い→「しまくとぅばの日」 23.9%

○30代

最も低い→「しまくとぅば普及推進に取り組む団体等への補助金制度」 0.0%

最も高い→「しまくとぅばの日」 27.9%

○40代

最も低い→「しまくとぅばの日に関する条例」 2.1%

最も高い→「しまくとぅばの日」 27.8%

○50代

最も低い→「しまくとぅば普及推進に取り組む団体等への補助金制度」 0.0%

最も高い→「しまくとぅば普及推進CM」 29.5%

○60代

最も低い→「しまくとぅばの日に関する条例」 3.1%

最も高い→「しまくとぅばの普及推進CM」 29.8%

○70歳以上

最も低い→「しまくとぅばの森（五十音表）の作成」 2.4%

最も高い→「しまくとぅばの日」 29.4%

ポイント

認知度は「しまくとぅばの日」が最も高く27.2%、次いで「しまくとぅば普及推進CM」24.5%。その他は20%以下と認知されているとは言えない。

年代では、「しまくとぅば県民大会」、「普及推進テレビ番組」、「しまくとぅば語やびら大会」の認知度に年代差がある。

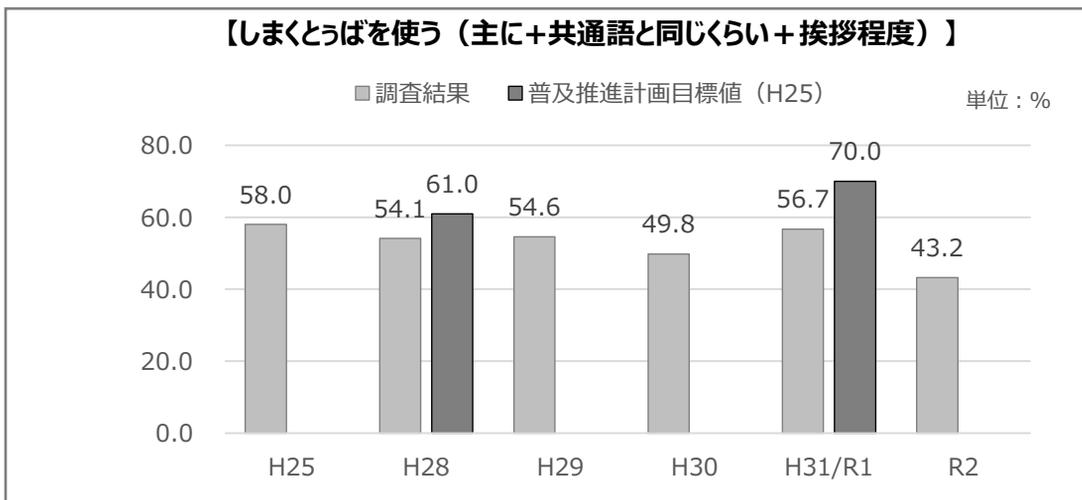
2.総括

「しまくとぅば」は、組踊や琉球舞踊、沖縄芝居等といった沖縄文化の基層となる大切な言葉である。しまくとぅばが失われると、県民の郷土愛も失われ、沖縄文化の衰退へと繋がるものと危惧される。

沖縄県では、「しまくとぅば」普及継承のため、「しまくとぅばの日に関する条例」、「沖縄県文化芸術振興条例」及び「沖縄21世紀ビジョン基本計画」に基づき、しまくとぅば普及推進計画（以下「普及推進計画」という）を策定した。普及推進計画において、「①しまくとぅばを主に使う」、「②しまくとぅばと共通語を同じくらい使う」、「③挨拶程度使う」人の割合の合計を、平成25年の基準値58%から、平成34年（令和4年、2022年）には88%とすることを目標として設定し、目標の達成状況については、「しまくとぅば県民意識調査」により把握することとしている。

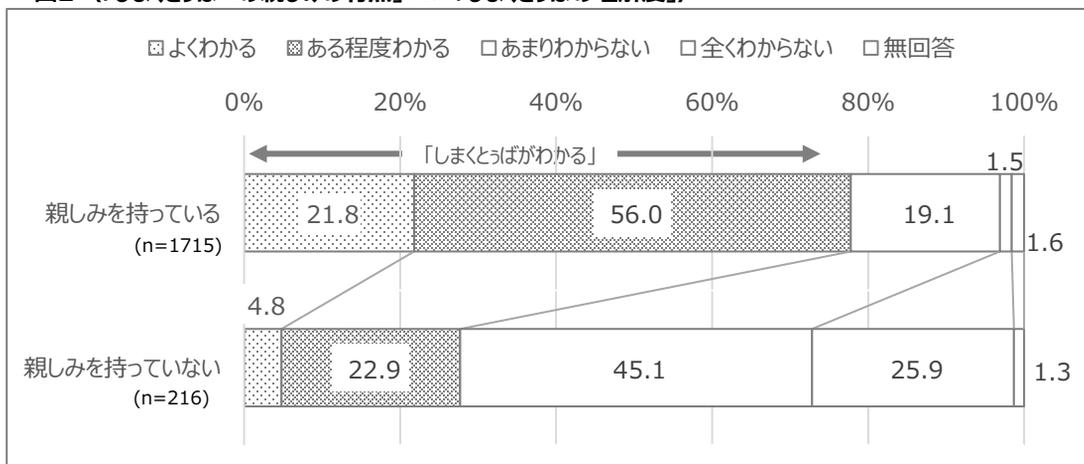
今回の調査の結果、「①しまくとぅばを主に使う」、「②しまくとぅばと共通語を同じくらい使う」、「③挨拶程度使う」人の割合の合計は、43.2%であった。（図1）平成25年の調査結果から最も低い結果となった。

図1 〈しまくとぅばの使用頻度推移と「しまくとぅば普及推進計画」における目標値〉



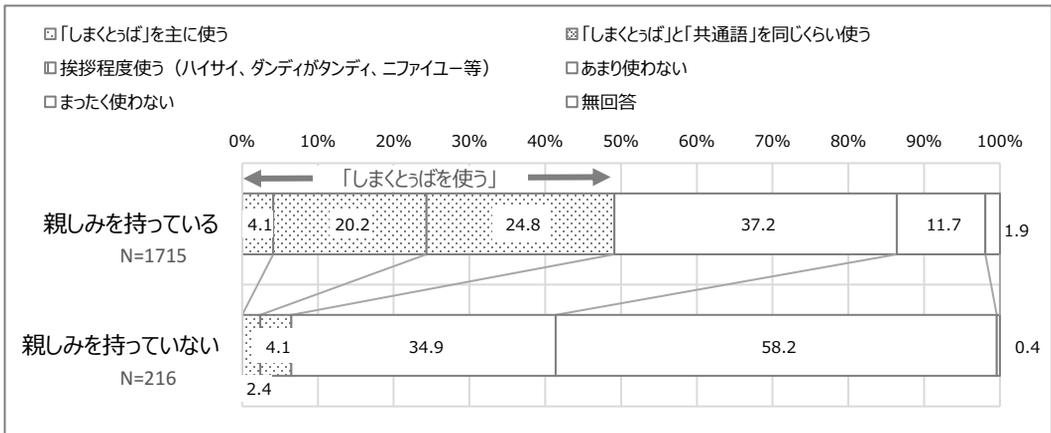
ただし、「しまくとぅば」に対する県民の意識は全体としては、高い好感度を有しており、全体で84.8%が「親しみを持っている」と回答。経年比較でもこれまでに最も高かった。また「普段の生活の中でしまくとぅばが必要」と考えている県民も75.5%と高い水準である。そのような中で、実際に「しまくとぅば」を「挨拶程度以上」のレベル使っている方は、前述のように5割程度であり、その割合も伸び悩んでいる。そこで、「しまくとぅば」に親しみの有無や、「しまくとぅば」の理解度（わかる、わからない）などの視点で調査結果を改めてみる。まず、「親しみ」の有無と「理解度」の関係であるが、下記の通りとなった。（図2）「親しみを持つ」グループの理解度が77.8%に対して「持っていない」グループは27.7%と50ポイント以上の差があった。

図2 〈「しまくとぅばへの親しみの有無」×「しまくとぅばの理解度」〉



次に「しまくとばの使用頻度」との関係をもてみると、下のようになる。(図3)

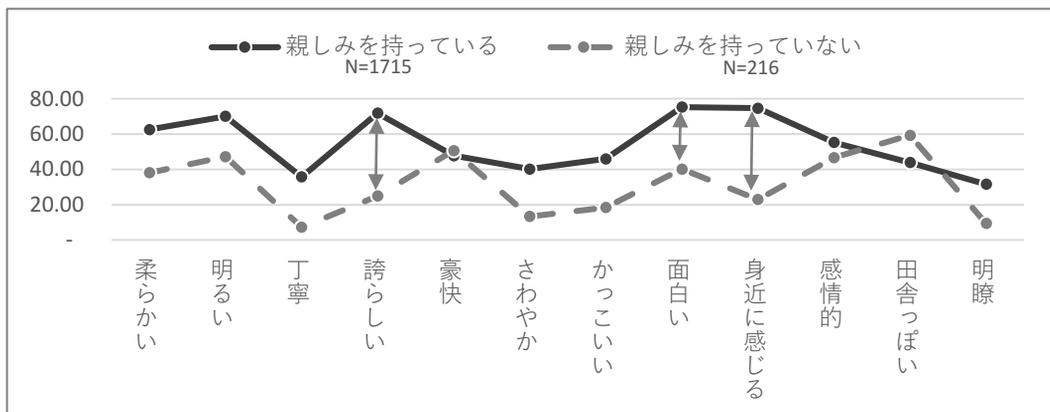
図3 「しまくとばへの親しみの有無」 × 「しまくとばの使用頻度」



「親しみを持っている」グループは「主に使う」が4.1%となっている。「共通語と同じくらい」が20.2%、「挨拶程度」が24.8%で、合わせると49.1%となっている。「親しみを持っていない」グループでは「挨拶程度以上使う」は6.5%で、「親しみを持っている」グループとは40ポイント以上の差が開く結果となった。

次に「しまくとばに対する親しみ」の有無で「しまくとば」のイメージがどのように違うかを見てみる。(図4)

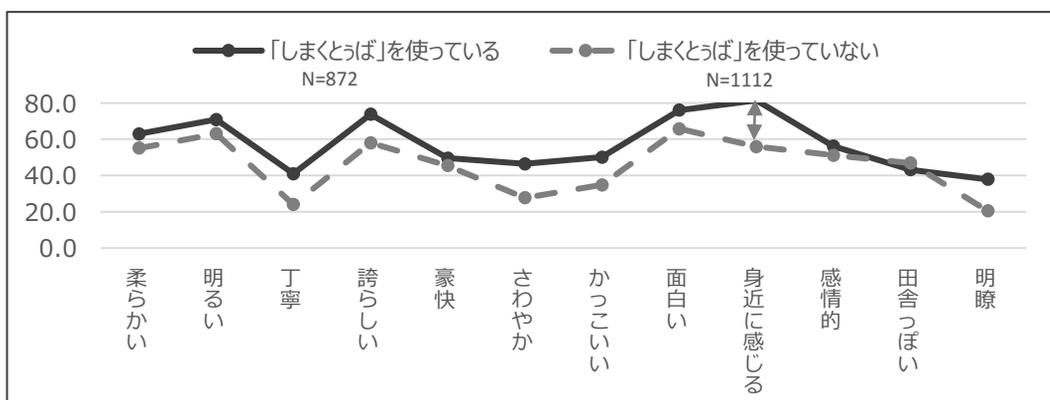
図4 「しまくとばへの親しみの有無」 × 「しまくとばのイメージ」



「親しみを持っている」グループは「誇らしい」、「面白い」、「身近に感じる」などで「親しみを持っていない」グループとのギャップが大きくなり、全体的にポジティブな評価をしていることがわかる。

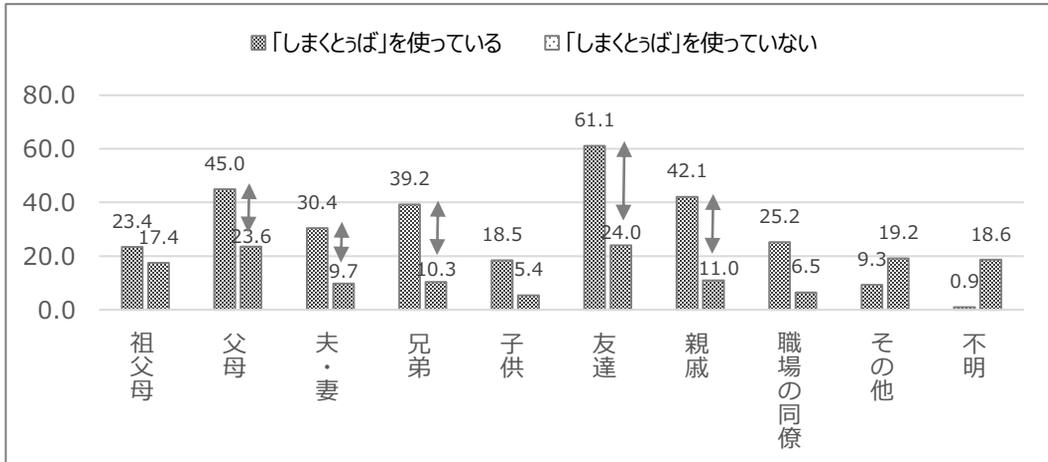
また、「しまくとば」を「使っている」、「使っていない」で同様の分析をすると「身近に感じる」、「誇らしい」、「さわやか」、などのワードでギャップが大きいことが分かった。

図5 「しまくとばの使用の有無」 × 「しまくとばのイメージ」



次に「しまくとぅば」を「使っている」、「使っていない」で、「しまくとぅばを使う相手」を見ると次のようになる。(図6)
 「しまくとぅば」を使うグループは、「父母」、「夫・妻」、「祖父母」、「兄弟」といった「家族」との会話で「しまくとぅば」を使っているといえる。最も差が開いたのが「友達」で36.1%となった。

図6 「しまくとぅばの使用の有無」 × 「しまくとぅばを使う相手」



また、自分が住んでいる地域への愛着の有無で「しまくとぅばへの親しみ」(図7)、「しまくとぅばの使用頻度」(図8)を見ると、「愛着を感じている」方は、「しまくとぅば」についても親しみが強く、使用頻度も多くなる傾向が見られる。

図7 「居住地域への愛着の有無」 × 「しまくとぅばへの親しみ」

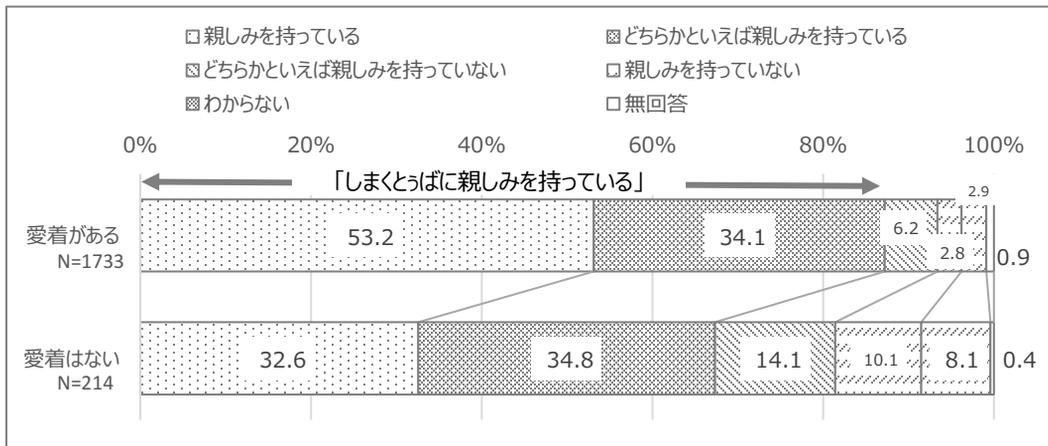
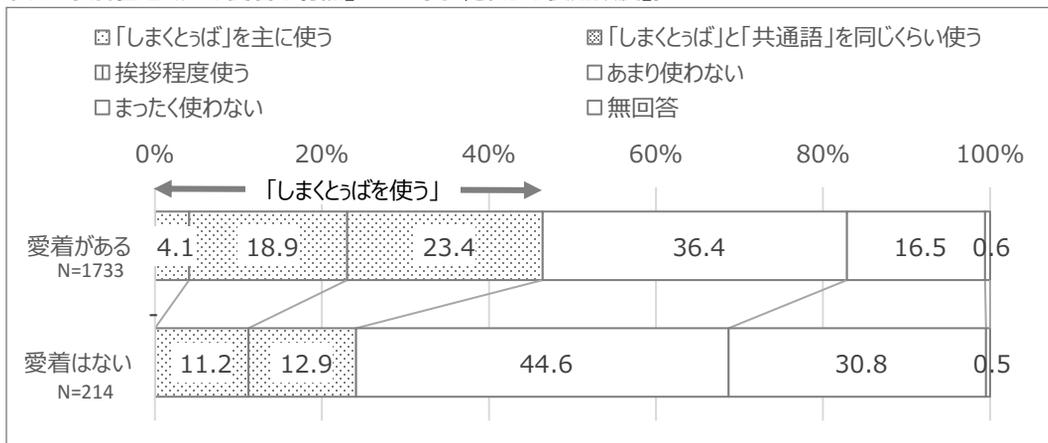


図8 「居住地域への愛着の有無」 × 「しまくとぅばの使用頻度」



今回の調査結果では、「しまくとぅば」に対する「親しみ」が平成25年度から実施している調査の中で最も高い結果となった。親しみがあるグループでは「しまくとぅば」を肯定的に捉えており、使用頻度も親しみのないグループと比べると大きな差がある。しまくとぅばを継承していくためには、もっと日常的にしまくとぅばと接する機会を創出するなど、しまくとぅば普及の取り組みを推進する好機である。これまでの調査結果からも県民は「しまくとぅば」に対して「面白い」、「明るい」、「身近に感じる」、「誇らしい」という印象を持っているといえる。自由回答でも「メディアを活用した普及活動」等、促進活動についてのコメントも多く上がっていることから、「面白い」、「明るい」、「身近に感じる」、「誇らしい」というキーワードを活用した促進活動が求められる。

「しまくとぅば」に対する理解度では、「よくわかる」が19.1%、「ある程度わかる」が51.1%となり、合算すると70.2%でこれまでの調査で最も高い値となっていることから、理解度の高い層にアプローチする施策の検討も必要だと思われる。

また、地域への愛着の度合いとの相関も見られることから、「しまくとぅば」の普及活動を促進することは、地域への愛着（郷土愛）を高めていく上で重要だと考える。地域の文化の基層としての「言葉」への関心を高めていくことは、地域活動の活性化にとっても重要である。

今回の調査では「しまくとぅば」の使用頻度が低下している。これは今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、外出や会食などを自粛された方も多く、親族間、家族間、友人間などのコミュニケーションの機会自体が減少したことが影響した可能性がある。

しまくとぅばを使わない理由についての「自由回答」を見ると、「学び方がわからない」という10代の回答以外にも、「わかる人が少なく、自身もあまり使わなくなった（70代）」、「周りに使う方が少なくなったが、家族がしまくとぅばで話しかけてくれるため、忘れることなくスムーズに話せる（60代）」といったコメントのように、周りに使う人が少なくなるにつれ、使用頻度が下がり、使わなくなっている様子が伺われる。しまくとぅばを使う相手を見ると、これまでの調査と同様に最も多いのが「友達」で39.8%、令和元年度調査で48.1%、平成30年度調査で58.2%と大きく減少傾向にある。また家族間で使用していることも多いが、「祖父母」「夫・妻」「兄弟」「親戚」の4項目で使用する割合が減少傾向にある。しまくとぅばの利用シーンの減少が、使用頻度減少の要因のひとつとして考えられる。

まずは日頃からしまくとぅばに親しむために、「接点が多い家族間」、「気軽に話しやすい友人同士」におけるコミュニケーションの際に、しまくとぅばを使うことが重要であるが、コロナ禍においては、ホームページやSNSなどWEBの活用促進が求められる。

「ビジネスや公共の場での利用」の「自由回答」では、「みんなが理解できる言葉で話すべき」、「相手が理解できるのかがわからない」という相手と意思疎通するのに難しいという意見と、「乱暴」、「恥ずかしい」、「田舎っぽい」というネガティブな意見が見られる。しまくとぅばのイメージとして「面白い」、「明るい」というイメージがある一方、「ビジネス等の場で使いにくい」と感じる人もいる状況から、「ハイサイ」などの挨拶程度の使用が求められていると思われる。60代、70代の方には子供のころの「標準語励行」などの理由から、今でも「話せない」とコメントする方も散見される。

子供たちに対してしまくとぅばを「教える（積極的に＋時々）」割合は49.8%と約半数で、昨年の57.7%と比べると減少してしているようにみえるが、平成28年度45.8%、29年度47.4%、平成30年度50.9%とみていくとほぼ例年並みに推移しており、前回調査が何らかの理由で若干高めの数値になったものと推測される。

「ほとんど教えていない」との回答の理由では「自分が話せないので教えられない」が大半を占めている。一方、しまくとぅば普及のために必要な事として最も多い回答は「学校の総合学習等での実施」67.3%で学校への期待が大きくなっている。他方で、30代・40代などから「丁寧な日本語を覚えてほしい」、「代わりに英語や中国語を覚えてほしい」など、しまくとぅばより外国語などを重視する意見も見られる。

最後に啓発活動についてであるが、沖縄県が行っている各種施策については、まだ認知が十分ではない。最も認知されているのが「しまくとぅばの日」で27.2%とまだまだ県民に広く認知されているとは言えない。施策を検討する際には、「面白い」、「明るい」等、県民がしまくとぅばに対して持っている印象に沿った啓蒙活動が浸透しやすいと考えられる。最近では地元テレビ局の情報番組やニュース番組などで「しまくとぅば」を紹介するコーナーなどが増えており、自由回答からも「テレビなどで耳にする機会が増えると教えるきっかけにもなる」との回答があることから、マスコミなどでの積極的な取り組みは、広く県民への意識啓発を進めていく上で極めて重要であると考えられる。